

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101404
法人名	盛岡医療生活協同組合
事業所名	グループホーム「さくらの家」
所在地	岩手県盛岡市津志田1丁目8-25 (電話) 019-635-8521

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成19年10月11日	評価確定日	平成19年12月4日

【情報提供票より】(19年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り 2階建ての1階 ~ 2階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	約 2,400 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		750 円	

(4) 利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	79歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	盛岡医療生活協同組合 川久保病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を中心に取り組みについて共有した意識を持っていること。
住宅街に位置すること。
民家を活用しているが、規格された空間でない良さ、特に個室はそれぞれの個人の思いが反映されており、そのように活用できること。それは他の共用空間でも家庭的雰囲気をかもし出していること。
盛岡医療生活協同組合の事業所として、介護保険制度での医療連携体制が取られていること。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、前回評価の改善点も含め学習と研修を計画的に実施しており、その成果を実践に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組むことに評価の意義を認め、互いに意見を出し合い検討する中で自己評価を進めた。そのことが意識の共有にもつながるし、全職員による課題への取り組みにもつながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回の推進会議での意見や要望を踏まえ、それがどのような取り組みになっているか、報告、さらに討議を重ね内容を深めると同時に、現場での実践を行うことで、運営推進会議の討議内容を活かすように努力している。ただ、地域のネットワークづくりでは思うように進まない現実もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談・苦情受付窓口を設けており、日常生活や健康状況については個々人について担当の職員の手書きの便りをもって毎月家族に知らせている。家族会や家族アンケート、運営推進会議など、諸機会を使って家族の思いをつかむ努力をすすると共に、内部の検討を進め可能な限り家族意見の反映に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は大切であると認識しており、地域行事への参加、またホームの行事への地域住民の参加を求め、案内を出したり、ポスターなどで周知は行っている。しかし十分に交流と連携が取れているとは思っていない。今後、ホームの地域に対する広報活動を強化することで、グループホームに対する理解と地域のネットワークづくりに資することが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型という観点に立って、理念の中に“住み慣れた町で”との文言を挿入することを職員みんなで、この春から話し合ってつくりあげてきた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で話し合っつくりあげた理念であり、一人ひとりの職員がしっかり共有していることが、職員とのヒアリングの中で感じ取れた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事には可能な限り参加するようにしているが、職員体制の中で困難さもある。またグループホームの行事への案内やポスターなどで地域への周知に努めるなど交流すべき努力はしている。	○	具体的には自己評価にもあるように、地域との交流は努力されていることを前提にしながら、グループホーム或いは地域における「さくらの家」を地域で理解していただくために、各戸に回覧できるような広報活動に取り組むことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価を踏まえることはもちろん、それを学習や研修計画に盛り込み、職員全員が改善に向けた意識共有を行い、実践に取り組んでいることが、研修記録や業務日誌などから知ることができる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にはグループホームとしての取り組み状況や課題を具体的に提示し、意見を求めながらサービス向上に資する努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	概ね2ヶ月に1回開催される運営推進会議の内容、状況報告に管理者と利用者代表が市に赴き、いろいろな要望をしたり、状況をお聞きしたりして市との直接的なつながりの機会としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当職員から一般的な生活の状況と健康状況を知らせるお便りが出されている。金銭管理についても、預り金処理簿に記帳し、定期的に家族に閲覧いただき印を押したものが確認できた。 職員の異動等は前述の便り等で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記されているし、年1回の家族会や家族アンケート及び地域運営推進会議などの場を通して意見を求め、それらを運営に反映させるため、職員会議等の場で確認し実践に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は職員の異動・退職が多く、苦労はあったが、入居者本位に考えるための意識を全職員が共有し、力を合わせて取り組んできた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画(年間)や参加記録など確認できた。また、職員に対するヒアリングからも研修の機会が確保されていることが知り得た。 訪問当日も2名の職員が「日本認知症学会」に参加、これが報告され全職員で共有する仕組みもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム協会の定例会、ブロック会の会議に出席、また、研修活動を通しての交流、「さくらの家」としては、地域運営推進会議にグループホーム協会第一ブロックで訪問交流をしていくことにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学していただくこと、また、本人が違和感を持たないよう、5月15日に入居した入居者の例をとると、関連の川久保のショートステイやデイサービスなどでの体験を経させるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の表情が穏やかであり、日頃の入居者と職員との関係の良さをうかがい知ることができる。また、昼食時の観察でも支えあっている様子が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の希望や思い、趣味などをフェースシートに記入すると共に、ケアカンファレンスを重ねながら、本人本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	常に本人・家族の意向を確かめることを大切にし、ケアカンファレンスを重ね介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前14・15項目でも述べたように、本人や家族の意向と現状を踏まえつつ、ケアカンファレンスを重ね、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状況に応じて通院や送迎などの支援はしており、月に1回は定期的にも通院の送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切にしながら、医療連携体制をとって月4回の訪問看護を利用し健康チェックと、川久保病院と医療契約によって月1回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、本人や家族の意向をもとにしながら、医療連携の中で具体的な指針をもって全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについては、契約書の秘密の保持を厳守することはもちろん、重要なことは本人の個人としての尊厳であり、一人ひとりの思いやふれてほしくないことを大切にしようとするに努めることである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問当日、朝に職員と共に散歩に出た人、玄関で花を生ける人、掃除をしている人など思い思いの行動が見られ、日常の様子が垣間見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みは一人ひとりの食事状況を職員が観察し、カンファレンスで話し合い把握すると同時に、年2回病院の管理栄養士の指導を受けている。 食事の準備・片付けは個々得意なことで活動していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに午後からの時間帯の中で本人の希望によって支援している。入浴にあたっては、ヴァイタルチェックを確認して実施している。 職員の勤務体制上、全ての時間帯で自由にという希望に沿うことは難しい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	フェースシートによって生活歴や趣味や希望を活かした支援をしている。具体的には食事づくり、買い物、野菜づくり、洗濯、生け花、掃除など。訪問当日もいろいろな動きが見えた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の状況、希望に応じて外出支援をしており、可能な限りの努力はしている。ただ家族からはもっと外出支援への願望もあるようである。	○	外出支援は一人ひとりの希望に沿って行っていることは認められるし、そのことを踏まえながらも、運営推進会議録などによれば家族の願望がいま一つあることについて、ホーム側と家族のコミュニケーションを深め双方の理解を図ることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除き鍵はかけない。外出しそうな時はさりげなく見守る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対する策として、火災を中心に消防署の協力・指導を得て避難訓練を実施。また独自にも1~2ヶ月おきにやっている。地域の協力ネットワークづくりは運営推進会議を通じて努力しているが実現できていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常において職員が観察すると共に食事量記入表によってチェックしているが、今後水分量のチェック表を作りたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般民家をよく活用しており、共用空間も大きなソファを三基設置。みんなで座れるし、広縁には個々の居場所もある。民家であったことから制約面もあるが、逆に住むため生活するためのぬくもりのある空間を感じる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は民家の持っていた各部屋の広さ特徴を活かし、個々に使い慣れたものを持ちこみ、それぞれ個性のある雰囲気を感じ取れた。規格的につくられた部屋ではない良さもある。		